

# 三島町での除雪ボランティア10年

## ～いわき明星大学災害ボランティア演習～

高齢者の方も覚えがないほど雪の少ない冬を迎えています。それでも、いつもの冬も、いつ「ドカ雪」に見舞われるのかと、雪国特有の不安がつきまといまいます。高齢者の方にとりましては、なおさらのことかと思えます。

そうした不安と、肉体的困難を抱える降雪時期に、毎年、いわき明星大学では災害ボランティア演習として三島町に入り、高齢者宅等の除雪ボランティアを実施しています。平成18年から活動が始まって、今年でちょうど10年を迎えました。除雪作業という直接的なものに加え、若い力の思いやりの姿勢が安心感につながっているように感じます。今年は、学生、教授合わせて16名が2月6日から8日まで滞在し、中日を金山町での活動とし、三島町では高齢者宅9戸、公共施設2カ所の除雪を実施しました。



↑ 慣れない作業に汗を流す大学生

例年と比較すると随分と少ない雪の量でしたが、それでも、屋根の下の雪は高く積もり家の中を暗くしていました。除雪により窓がすっかり顔を出し、対象の高齢者の方からは「家の中が明るくなりました。ありがとう」と感謝の言葉が、学生に向けられていました。

また、恒例となっている「いわき明星大学と西方地区役員の交流会」が、自炊・宿泊所となっている西方ふるさとセンターで催され、学生から「除雪作業は初めてで貴重な経験をさせていただきました。これからの活動に活かしていきたい」と感謝を述べていました。



↑ 西方地区役員さんとの交流会

近くのサロンをちょっとのぞいてみましょう！

## 間方いきいきクラブ (代表 舟木義晴さん)

登録者 15名

「間方いきいきクラブ」は、平成16年からの3年間は町委託事業により実施され、その後、自主開催に移行してから今年で10年目をむかえます。

月1回開催されるサロンには元気な顔が集まります。2月のサロンは、交流センター山びこで催されていた赤阪先生の写真展「山で生きる～間方の暮らし～」をみんなで観賞しました。

サロンは、年間計画に沿って進められていますが、時には自分達の自由な発想で変えることもできることも魅力の一つです。

代表の舟木義晴さんは「うちにばかりいだっておもしろいね～、みんなで集まって声に出して笑い合える時間が何より楽しい、だから意識的に地域社会とかわることが生活のメリハリにもなって自分も元気をもらって大好きな間方に住み続けていける。」と・・・

高齢者は社会から支えられているだけの存在ではなく、支えることも十分にできるということを間方のサロン活動は実証しているように思います。



↑ 一枚の写真にみんなが集まって、昔話に華が咲きます